

第5学年1組 学級活動（2）指導案

平成28年6月3日
尾道市立山波小学校
指導者 教諭 岡田将平

1 題材 「いきいきスクールに向けて」 学級活動（2） ウ 望ましい人間関係の形成

2 題材について

（1）児童の実態

本学級の児童は、「新しいことに挑戦したい」という意欲をもった児童が多くいる。しかし、「失敗したら笑われる」「恥ずかしい」などの感情から実際には積極的に行動できない児童が多い。授業や休憩時間の様子からも、どこか友だちの目を気にして、思い切り自分を表現できていないように感じる。事前に行った学校環境適応感尺度「アセス」の結果を分析してみても、日常的に友だちの目を気にしているような様子と結び付いていると考える。

（2）題材設定の理由

児童の実態から、友だちと協力したり、課題解決のために意見し合ったりできる、信頼し合える関係を築いていきたいと考えている。そのために、「笑われる」「恥ずかしい」といったマイナス感情を、活動を通して小さくするように仕組んでいきたい。また、「いきいきスクールに向けて」という題材名を示すことで、本活動と体験活動を結び付け、目的意識をもたせて活動させていきたい。今後の体験活動を充実させるためには、①支持的風土を確立すること、②規範意識を高めること、③メリハリをつけることが大切だと考える。そのため、本活動においても①～③のことを意識して指導していきたい。

3 第5学年及び第6学年の評価規準

観点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評価 規準	学校・学級集団の中で、様々な人と仲良くできる人間関係を築こうとしている。	友だちのよさを認め、よりよい人間関係を築くためにはどうしたらよいかを考え、行動している。	仲良く温かい学級集団にするための方法を理解している。

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・題材及び体験活動についておおまかに内容を知る。 ・学校環境適応感尺度「アセス」の設問に答え、自分の状況を振り返る。	・どのような活動を行うのか事前に予告しておく。 ・体験活動への期待が膨らむように伝える。 ・学校環境適応感尺度「アセス」の結果を分析し、児童の学校適応感をとらえる。	【関心・意欲・態度】 ・集団で仲良くできる人間関係を築こうとしている。 (アンケート調査)

5 本時のねらい

- 恥ずかしがらずに友だちと手をつなぎ、課題解決の方法を考え、よりよい関係づくりのために話し合うことができる。

6 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と 評価方法
導入	1 ウォーミングアップのエクササイズをする。	・手をつなぐことに慣れさせる。	
	2 手をつないだ感想を交流する。	・最初の気持ちを出させ1時間の変化を感じさせる。	
3 本時の目標を確認する。	・本時のめあてを提示し、活動の見通しをもたせる。		
【めあて】 「手つなぎゲーム」で目標タイムを出す方法を話し合おう。			
展開	4 グループ対抗「手つなぎゲーム」をする。	・活動のきまりとゲームのルールを確認する。	
	・5分間のグループタイムをもち目標タイムと方法を話し合う。	活動のきまり	
	・話合いが終わったグループは練習をする。	・設定時刻が来たら静かに待つ。	
	・それぞれのグループで1回ずつチャレンジをする。	・友だちを励ます言葉がけをする。	
	5 全員で「手つなぎゲーム」をする。	ゲームのルール	
	・目標タイムと方法について話し合う。	・絶対につないだ手を離さない。	
	・目標タイムに向けて何度もチャレンジする。	・どうすれば早くできるのか他のグループの方法を参考にして考えさせる。	
		・どのグループも解決策を思いつかないようであれば、方法を教える。	
	6 本時のまとめ・振り返りをする。	・全員で手をつなぐことで集団の意識を高める。	
	・手をつなぐこと、目標達成のための話合いについて振り返る。	・最初の気持ちと、みんなで決めた目標を達成できた際の気持ちを比べ、変化を実感させる。	
終末	【まとめ】 みんなで決めた目標を達成できると、喜びを分かち合える。		
	・自分が生活の中で頑張っていくことを決める。	・互いの頑張りについて励まし合えるようにする。	

7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・体験学習のグループ作りを行う。 ・グループ、学級の目標を話し合う。	・活動内容について写真などを示しながら具体的にイメージさせる。 ・体験活動への期待が膨らむように伝える。	【関心・意欲・態度】 ・「いきいきスクール」に向けてよりよい学級にするために必要なことを考えている。 （観察・ビーイング）